

2 研究の実際


(1) 新学習指導要領に関わる理論研究

ア 外国語教育の現状と課題

グローバル化が急速に進展する中、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定されます。そのため、その能力の向上は、教育やビジネスなど様々な分野に共通する喫緊の課題とされています。2013 年 12 月には文部科学省から、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が公表され、小・中・高等学校を通じて学びを改善・充実させる、新たな英語教育改革が進められています。

外国語科ではこれまでも、外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする力を身に付けさせることを目標とし、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」などを総合的に育成する様々な取組が行われてきました。このことにより、生徒が「聞くこと」及び「話すこと」の活動を行うことに慣れてきているなど、一定の成果が生まれていますが、生徒の英語力や授業において課題も見られます。学習指導要領解説で指摘されている課題について、表 1 のように整理しました。

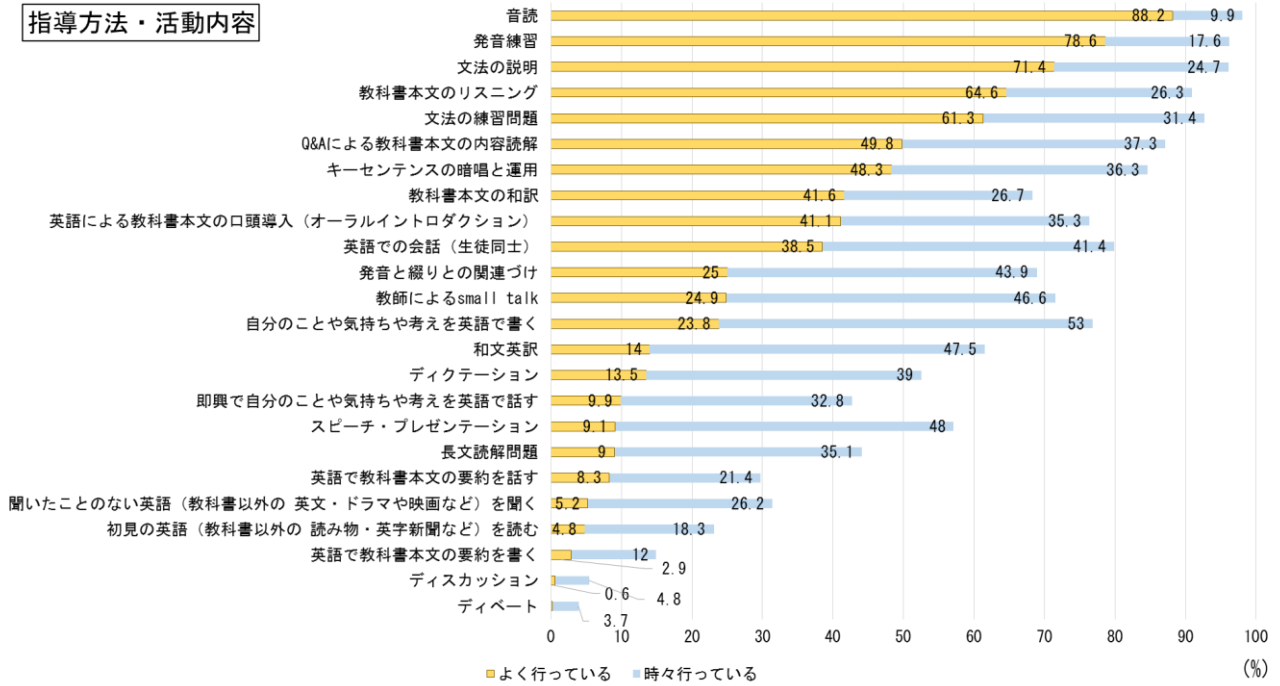
表 1 生徒の英語力や外国語の授業における課題

<p>[生徒の英語力における課題]</p> <p>習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力が身に付いていない。</p>

<p>[外国語の授業における課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等学校間の接続が十分とは言えず、各学校段階における学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができていない。 ・授業では、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれる傾向がある。 ・外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていない。 ・「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分に行われていない。 ・複数の技能を統合した言語活動が十分に行われていない。

これらの課題は、英語教育の実態と英語教員の意識について明らかにすることを目的にベネッセ教育総合研究所が実施した、「中高の英語指導に関する実態調査 2015」⁽¹⁾の結果にも見ることができます。授業で行われている学習活動について、音読や教科書本文のリスニングなど音声を中心とした活動、また、文法指導や教科書の内容読解はよく行われているものの、ディスカッションやスピーチを行うこと、初見の英文を読むことなど、実際のコミュニケーションの場面を想定し、習得した知識・技能を活用させる言語活動があまり行われていないという実態がうかがえます（次頁図 1-①）。また、「生徒が自分の考えを英語で表現する機会を作る」、「複数の技能を統合的に用いる活動を行う」、「4 技能のバランスを考慮して指導する」などについて、重要だと認識されているにもかかわらず、実際にはなかなか行われていないという現状があるようです（次頁図 1-②）。

①

Q.授業において、次のことをどれくらい行いますか。

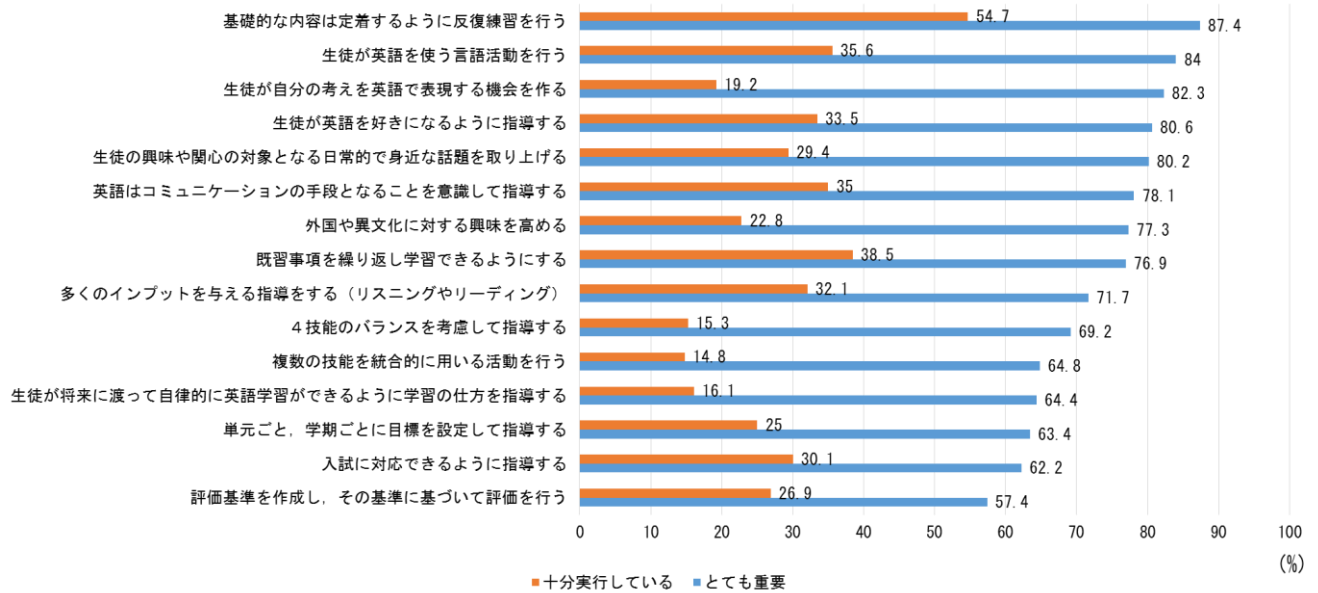


②

Q.英語を指導する際、次のことはどれくらい重要だと思いますか。

また、それぞれについてあなた自身はどの程度実行していますか。

とても重要だと思うこと/十分実行していること



ベネッセ教育総合研究所 「中高の英語指導に関する実態調査 2015」 (平成 28 年 3 月) のデータを基に筆者が作成

図 1 英語科の授業における指導の実態 (校長 717 名、英語教員 1801 名が回答)

イ 外国語科の目標

新学習指導要領では、全ての教科等や教育活動を通じて育成を目指す資質・能力が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理されています。そして、全ての教科等の目標や内容が、三つの柱に基づいて再整理され、明確に示されています。

外国語科においても、これまでの教育における課題を踏まえ、外国語科で育てる資質・能力を明らかにするとともに、小・中・高等学校におけるそれぞれの学びをつなぎ、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から、目標の改善・充実が図られています。

新学習指導要領に示された、中学校外国語科の目標は次の通りです。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成29年3月 第2章第9節

今回の改訂において、外国語が小学校高学年で教科として扱われ、現行の「外国語活動」が中学年で導入されることから、「コミュニケーション能力の基礎の育成」は小学校で行われることとなります。それに伴い中学校では、小学校における学びを生かし、「コミュニケーションを図る資質・能力の育成」を行うこととなります。関心のある事柄や日常的な話題、また、社会的な話題について、英語でコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を持ち、授業で獲得した言語知識や技能を、実際のコミュニケーションを目的として運用できる能力を育てることが求められています。

「コミュニケーションを図る資質・能力」について、資質・能力の三つの柱に基づいて整理したものを、それぞれの目標と共に表2に示しました。知識及び技能が、実際のコミュニケーションにおける思考・判断・表現の繰り返しを通して獲得され、それによって学習内容の理解が深まるなど、資質・能力を相互に関係付けながら育成することが大切となります。

表2 コミュニケーションを図る資質・能力

は『中学校学習指導要領』（平成29年3月）より引用、
 その他は『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ 資料2』（平成28年8月）を参考

資質・能力の三つの柱	コミュニケーションを図る資質・能力
<p>◆知識及び技能</p> <p>何を知っているか、何ができるか。</p>	<p>【目標】</p> <p>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p>

	<p>[知識]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な知識を確実に習得すること ・ 既存の知識と関連付けたり組み合わせたりして、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図ること ・ 社会における様々な場面で活用できる概念としていくこと <p>[技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおける知識の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 獲得した個別の技能を自分の経験や他の技能と関連付け、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくこと <p style="text-align: right;">など</p>
<p>◆思考力、判断力、表現力等 知っていること・できることをどう使うか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【目標】</p> <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> </div> <p>[外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力 ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力 ○外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力 <p>[考えの形成、整理]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目的等に応じて、外国語の情報を選択したり抽出したりする力 ○知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力 ○形成・整理・再構築した自分の意見や考えを、実際に外国語で表現する力 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>◆学びに向かう力、人間性等 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【目標】</p> <p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> </div>

- 外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度
- 自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度
- 外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度

など

「コミュニケーションを図る資質・能力」は、小学校から高等学校までの学習において、段階を追って育成されることとなります。その指標として、国際的な基準である CEFR*を参考に、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の五つの領域別に示された学習到達目標の例が示されました（次頁表 3）。これらの 5 つの領域を複数統合した言語活動を通して、各学校段階でコミュニケーションを図る資質・能力を育成し、それぞれの学びをつないでいくこととなります。中学校卒業時には、生徒に「聞くこと」「読むこと」「話すこと」及び「書くこと」の技能が、総合的に身に付いていることが期待されます。この目標の実現に向け、学習する内容や指導なども改善・充実が図られています。主な改善内容とそれらの目的を整理し、次頁表 4 に示しました。

*国際的な基準：CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠）は、語学シラバスやカリキュラムの手引の作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、20 年以上にわたる研究を経て、2001 年に欧州評議会が複言語主義の理念の下、発表したものである。学習者、教授する者、評価者が共有することによって、外国語の熟達度を同一の基準で判断しながら「学び、教え、評価できるよう」開発されたものである⁽²⁾。

表 3 「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標（イメージ）たたき台⁽³⁾

「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標（イメージ）たたき台 資料 5						
校種	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
高等学校 ↑ 中学校 ↑ 小学校	B2	<ul style="list-style-type: none"> 母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。 自然な進捗で話される時事問題や社会問題に関する短い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。 時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。 知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。 幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。 多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な自分の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。 聴衆の反応に応じて、発話の内容や方法を調整することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。 時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。 時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。 Eメール、エッセイ、レポートなどをそれぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。
	B1	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。 社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共の場所（店、駅など）において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。 身近な話題や興味心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。 身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。 関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。 知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。 身近な話題や関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。 関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明することも、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。
	A2	<ul style="list-style-type: none"> 短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を読み取ることができるようにする。 身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。 平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやり取りをすることができるようにする。 身近な話題や興味心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。 身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。 身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。 関心したり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。
	A1	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。 身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。 相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をしてくれるなど）があれば、ごく身近な話題において、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。 ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。
	(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかわかるようにする。 挨拶や短い簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に話すラジオや身近で具体的な事柄を表すごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。 相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をしてくれるなど）があれば、自分に聞かせることについて簡単な質問に答えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶やごく短い簡単な指示に回答することができるようにする。 相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をしてくれるなど）があれば、自分に聞かせることについて簡単な質問に答えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。 自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を持ってアルファベットの文字と対文字を活字で書くことができるようにする。 自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。 10分を参考にしながら、音声などで明文を視覚化した語句や文を書き写すことができるようにする。

複数の力を統合的に扱う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける

文部科学省 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成 28 年 8 月

表 4 学習内容及び学習指導の改善内容と目的

改善内容	改善の目的
○授業は英語で行うことを基本とする。	・生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面となるようにする。
○取り扱う語数は、小学校で学習する 600～700語に加え、1600～1800語程度とする。また、「感嘆文のうち基本的なもの」や「現在完了進行形」など数項目の文構造や文法事項を追加する。	・オーセンティックな言語活動において、五つの領域別の目標を達成するために、使用する表現をより適切で豊かなものにする。
○小中の接続を重視し、学びの連続性を意識する。	・小学校における学習内容や指導方法等を発展的に生かし、生徒の学びを広げ、深める。
○「話すこと」について、[やり取り]と[発表]の二つの領域に分ける。	・複数の話者が相互に話す[やり取り]と、一人の話者が連続して話す[発表]では、「話すこと」の特性に違いがあることを踏まえ、それぞれの領域について、言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げ、語、文法事項などの言語材料を効果的に関連付けた言語活動を行う。
○「即興」で話す力を育成する。	・生徒が実際のコミュニケーションの場面で、より円滑に自分の気持ちや考えを伝えたり、情報を伝えたりすることができる力を育成する。

ウ 外国語科における「見方・考え方」

新学習指導要領では、全ての教科等を通じて「見方・考え方」を働かせた深い学びを実現させることが求められています。「見方・考え方」とは、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、その教科等ならではの物事を捉える視点や考え方です。各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮したりすることを通して鍛えられていくもので、その過程を重視し、学習を充実させていくことが求められています。

外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」は以下のように示されています⁽⁴⁾。

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

文部科学省 『中学校学習指導要領解説外国語編』 平成29年7月 第2章第1節

言語は人との関わりの中で用いられるため、他者を尊重する気持ちを持ち、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながらコミュニケーションを図ることが求められます。外国語を用いた実際のコミュニケーションの場面では、社会や世界との関わりの中で物事を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解したりしながら、様々なバックグラウンドを持った人たちとコミュニケーションを図っていくことが重要となります。

そこで授業においても、生徒が相手意識を持ち、目的や場面、状況等に応じて思考・判断することを通して、適切な言語材料の活用や、様々な情報の精査・整理などを行いながら、自分の気持ちや考えを構築したり、伝え合ったりすることができる言語活動を実現することが必要です。そうすることで、「見方・考え方」が確かで豊かなものになり、学ぶ意味の理解が図られます。そして、自分の生活や人生と社会をつなぐ学びが実現され、学校で学ぶ内容が生きて働く力として育まれることとなります。

エ 外国語科における学習過程

学習指導要領解説外国語編では、英語科における資質・能力を偏りなく育成していくために、図 2 に示す学習過程において、学んだことの意味付けを行ったり、既存の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくことが大切だとされています。そして、考えが広がったり深まったりすることを、生徒自身が実感し、自分の学びや成長を自覚して自信を持つことができるような手立てを仕組むことが求められます。また、①から④の学習過程を繰り返し経ながら、指導の改善・充実を図る必要があります。

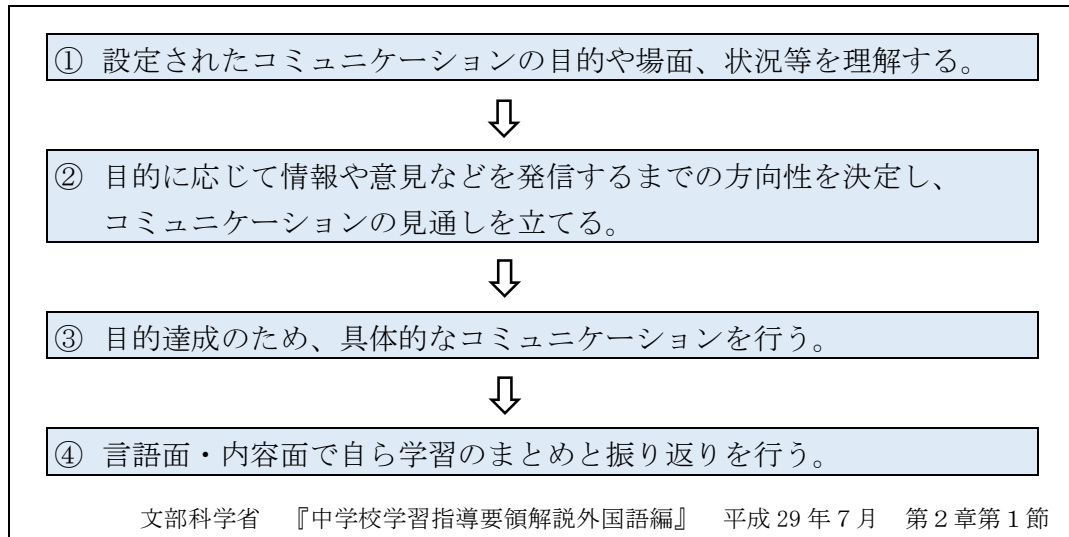


図 2 外国語教育における学習過程⁽⁵⁾

オ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善

変化の激しいこれからの時代を生きる子供たちが、様々な課題に積極的に向き合い、生涯にわたって能動的に学び続け、たくましく生き抜いていくことができる資質・能力を育むために、学校教育において、学習の質を高める授業改善の取組を活性化していくことが求められています。その授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」の実現が示されています。

「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の実現を目指す授業改善の視点は、表 5 のように整理されています。

表 5 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善の視点⁽⁶⁾

主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができているか。
対話的な学び	子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
深い学び	習得・活用・探究の学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につながる「深い学び」ができているか。

中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 第1部第7章2

これらの実現を図ることにより、図 3 のイメージで示されているとおり、通常行われている学習活動の質を向上させ、生徒の学びが、将来に生きるより確かなものになることを目指していくこととなります。

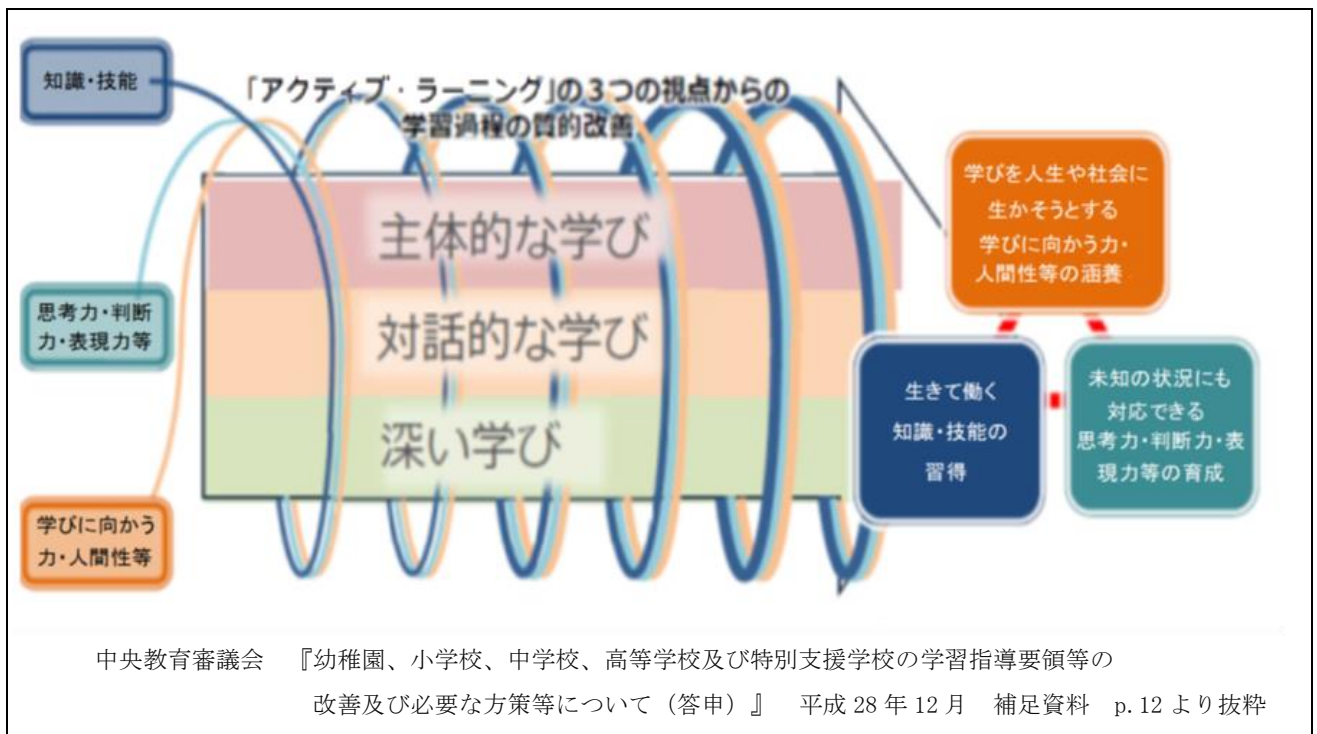


図 3 資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）⁽⁷⁾

「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る外国語の授業づくりについて、『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』及び学習指導要領解説外国語編に示されている主なものを、本研究委員会では以下のように整理しました。

外国語教育においては、質の高い学びに向けて、学びの過程を、相互に関連を図りつつ、改善・充実を図ることが必要である。そのような過程で外国語によるコミュニケーションを通じて、自分の思いや考えが深まったり更新されたりすることを児童生徒が認識し、自信を持つことができるような学習活動を設けることが重要である⁽⁸⁾。

文部科学省 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 第2部第2章12

- 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、各教科等において通常行われている学習活動の質を向上させることを主眼とするものである。
 - 主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元など内容や時間のまとまりの中で授業改善を進めることが求められる。
- [授業改善の視点例]
- ・主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。
 - ・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。
 - ・学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか。
- 生徒や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要である。
 - 単元のまとまりを見通した学習を行うに当たり、基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、生徒の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ることが必要である。

《引用文献》

- (1) ベネッセ教育総合研究所 「中高の英語指導に関する実態調査 2015」 平成 28 年 3 月
http://berd.benesse.jp/up_images/research/03_Eigo_Shido.pdf
- (2) (4) (5) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説外国語編』 平成 29 年 7 月 第 1 章 2、第 2 章第 1 節、第 2 章第 1 節
- (3) 文部科学省 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成 28 年 8 月
- (6) (7) (8) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成 28 年 12 月 第 1 部第 7 章 2、補足資料 p. 12、第 2 部第 2 章 12